

## 【実践報告】

# 教職実践演習（幼・小）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 准教授 田 中 崇 教

## はじめに

本報告は、2019年度「教職実践演習（幼・小）（以下、本科目）」の指導概要とその省察を記したものである。本科目は、初等教育学科幼児教育コースの4年次生を対象に、教員養成・保育士養成課程の履修全体を通じて身につけるべき資質能力の涵養を様々なテーマ（内容）や形式（方法）で実施し、保育・教育の専門職者として求められる事項（①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児・保護者理解ならびに学級経営、④保育指導力）の補完・向上をねらいとしている。例年、「学生の確かな成長を実現するための効率的効果的な指導」に基づく授業内容の構成について、前年度までの省察および当該年度受講生の状況を踏まえながら関係教員等（幼児教育コース所属教員等）と密に協議を重ねてきた。

例年、関係教員らと確認する重点項目は、①4年次前期までに実施した教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅶおよび保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学びと自らの改善点（専門職者として向上するための課題）を学生が個々で明確にすること、②保育実践上の基礎技能や現在の保育・子育てをめぐる現況理解を補完すること、この二点であった。そこには、現時点での能力とその向上にむけた必要性を学生ら自身が個々に痛感するとともに、残された半年間の在学期間で専門職者としての資質向上に学生自ら取り組むことが指導上の目論みがあった。ゆえに、今年度においては授業時間内外で教員も巻き込みながら学生同士が話し合い・高めあうような雰囲気の醸成が工夫として必要であることを共有し、授業を実施した。

## 1 授業計画

全15回は次のように構成した。事前事後学修も含め、予定通りに実施された。

- |     |   |
|-----|---|
| 第1回 | オリエンテーションとこれまでの学びの振り返り<br>授業日程・内容・履修カルテを確認するとともに、4年間の学修を振り返る。       |
| 第2回 | 実習の振り返り—今後の取り組み関する演習<br>教育実習ならびに保育実習を総括し、専門職保育者としての自己の特性を確認する。      |
| 第3回 | 子育て支援に関する演習<br>地域子育て支援に携わっている支援者からの講話に基づき、地域子育て支援の理念や取り組みを理解する。     |
| 第4回 | 模擬保育および検討会①保育の立案<br>テーマに基づいた保育を各グループで立案・準備（教材研究を含む）し、保育実践力を高める。     |
| 第5回 | 模擬保育および検討会②<br>テーマに基づいた保育を各グループで実践するとともに振り返り（討議）を通じて、保育実践力を高める。     |
| 第6回 | 保護者理解（子育て支援）に関する演習<br>保育職務経験のある育児中の母親の講話と意見交換を通じて、保護者理解（子育て支援）を深める。 |

- 第7回 現任保育者による講話・意見交換①幼稚園  
幼稚園教諭による実践報告と質疑応答を通して、幼稚園教諭としての職務理解を深める。
- 第8回 現任保育者による講話・意見交換②保育所  
保育士による実践報告と質疑応答を通して、保育士としての職務理解を深める。
- 第9回 子育て支援（保護者支援）に関する実地演習と振り返り  
地域子育て支援の実践現場（子育て支援に関する研修会等を含む）に赴き、いわゆる子育て支援実践の理解を深める。
- 第10回 幼稚園・保育所等における実地演習・調査①子ども実態把握を中心に  
保育現場での実践演習（保育体験）を手掛かりに、テーマに関する分析・検討を行い理解を深める。
- 第11回 幼稚園・保育所等における実地演習・調査②保育者の業務を中心に  
保育現場での実践演習（保育体験）を手掛かりに、テーマに関する分析・検討を行い理解を深める。
- 第12回 幼稚園・保育所等における実地演習・調査③園環境を中心に  
保育現場での実践演習（保育体験）を手掛かりに、テーマに関する分析・検討を行い理解を深める。
- 第13回 保育実践の事例分析に関する総括的演習—子ども理解をテーマとして  
専門職保育者の資質として保育実践で重視されるテーマについて、これまでの学びを振り返ると同時に討議等を通して発展的・総括的に理解する。
- 第14回 保育実践の事例分析に関する総括的演習—小学校との接続をテーマとして  
専門職保育者の資質として保育実践で重視されるテーマについて、これまでの学びを振り返ると同時に討議等を通して発展的・総括的に理解する。
- 第15回 保育・子育て支援の現況理解と今後の動向を踏まえた総括  
研究機関や行政・保育現場で取り組まれている課題等を整理し、専門職保育者として今後の保育・子育て支援のあり方について検討する。

## 2 2019年度における指導上の特徴—保育専門職者としての視点の拡充—

本科目は、2013年度に開講されて以降、段階的に改善の手が加えられてきた。これまでの継続的な取り組みに加え、今年度も授業運営計画立案の際には受講生（幼児教育コース4年次生：49名）がこれまでに実施してきた幼稚園教育実習や保育実習等での評価・コメントを手がかりに、本科目での補完点と重視すべき方向性として次の点を確認した。それは、実地（幼稚園・保育所等）での実践力向上の意欲涵養である。

受講生の学年は、2年次後期に科目「幼児教育学演習Ⅱ」（演習：卒業必修科目）と科目「教育実習Ⅰ」（実習：学内実習）において当時の広島文教女子大学附属幼稚園（以下、附属幼稚園）での実施演習が授業内容として位置づけられた。2年次前期開講科目「教育実習Ⅶ」で学生らは附属幼稚園で園児らと積極的に関わったり、幼稚園教諭による設定保育などを観察したりすることにより、子ども理解や園の業務理解を実践的に深めている。その経験を継続的発展的に深化させる目的で、2年次後期に上記2科目は設定されたのである。この措置によって、学生は子どもの姿や設定保育の在り様を春夏期から秋冬期にかけて連続的に捉えることができ、長期的な視点で子どもらの成長発達や指導計画の推移を把握することができる。こうした実地経験の機会を補填するための具体的取り組みは、学生の間に芽生えた自主的な実地体験（保育補助ボランティア等）に取り組むことへの円滑化に成果を認めることができる。従前の本学幼児教育コース学生には、自主的な実地体験に不安や抵抗感を強く抱いている（教員に吐露する）者が少なくなかった。ところが、上述の取り組みを導入後、次第に赴くことへの不安感等を示す学生が減少したことは、幼児教育コース教員の所感として上がっていることから裏付けられるだろう。今年度も、一定期間ならびに一定時間以上の「実践演習（保育体験）」を

積み、この内容を分析・検討し、報告レポートとして各受講生は整理した。

実は、この取り組みは授業計画内で系統的（意図的）に編成されている。この点も本科目の特徴である。まず、「実習の振り返り—今後の取り組みに関する演習」を通じて、受講生は保育・教職専門性の向上にあたっての自己の課題と成長可能性を確認した。続いて、2回にわたる「模擬保育および検討会」を通じて実際に模擬保育を構想・実践することにより、現時点における自身の設定保育に関する力量とその向上のためのテーマを確認した。これらの自己認識活動において様々な疑問や不安が受講生自身の中に必ず浮かび上がってくる。そうした疑問や不安を解消するための手がかりを得る機会として「子育て支援に関する演習—支援者の立場から」、「現任保育者による講話・意見交換①—幼稚園」、「現任保育者による講話・意見交換②—保育所」、「保護者理解（子育て支援）に関する演習—保育者勤務経験のある育児中の母親との意見交換会」を実施した。学生は、現役保育者や母親らと漠然と談話し交流するのではなく、保育業務や子育てに関する「何らかのテーマ」を個々に設定して談話や交流に臨むため、理解の深化が見込まれた。こうした取り組みに基づき、受講生には実地にて向上課題とすべきテーマを絞り、それぞれの現場で保育実践力を磨いていったのである。さらに実地演習・調査にて整理した学びを「保育実践の事例分析に関する総括的演習」を通して受講生は補完した。今年度のテーマは、子ども理解と小学校との連携とした。テーマは予めシラバスに設定しておくが、受講生の実態に応じて再検討する体制は整えてあり、変更の場合には、オリエンテーション（授業開始当初）で資料配布等を通じて行うこととしている。このように、本科目は一瞥すると各回がそれぞれ独立したテーマによって構成されているように見えるものの、有機的に連動した教育的意図を内包している。

### 3 成果と授業改善に向けた課題

ポートフォリオ形式にて積み上げられる本科目の課題シートへの学生の取り組みを確認したところ、「これまでの学びの振り返り」、「専門職保育者をめざす学生としての自己認識」、受講生が個々に立てた「成長するためのテーマ」に関して、思考の深まりや実践力の向上が書き記されおり、受講生個々の誠実な取り組みが伺える。2016年度より現行体制になり、いくつかの改善を試みた成果が、次第に芽生え始めてきたといえる。

その一方で、課題としては実地との系統的な連携がより一層必要になっている。すなわち、一つには受講生らの卒後を見通した円滑な実地演習・調査プログラムの検討であり、もう一つには2019年度入学生から適用された新教育課程への対応である。本学における新たな幼稚園教諭養成課程および保育士養成課程の個々の科目、特に幼稚園や保育所といった実地での演習を内容に組み入れている科目と連携を図り、本科目の内容改善を検討してゆきたい。

#### 謝辞

今年度本科目を実施するにあたり、多大なるご支援ご尽力を賜った幼児教育コース卒業生有志、さらには学園統括部地域連携室に謹んでお礼申し上げます。